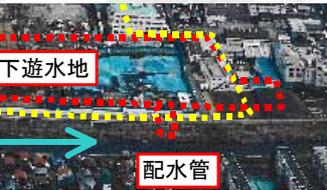


鶴見川総合治水対策特定河川事業川和遊水地について

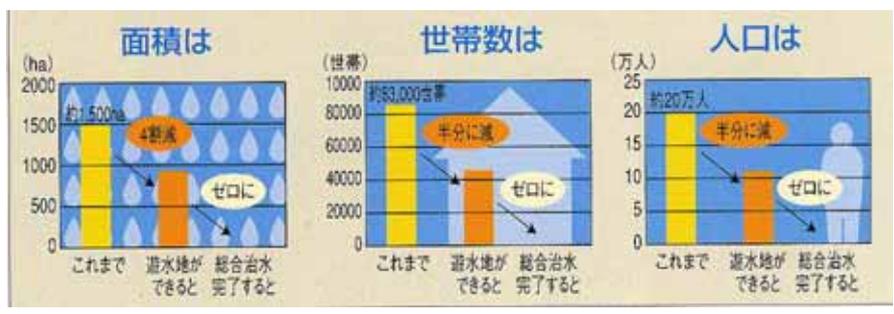
鶴見川流域は、人口増加や資産の集中などの急速な都市化に伴い、本来流域の持っていた保水・遊水機能が減少し、洪水被害の安全性の確保が困難になっています。鶴見川においては沿川に民家が建ち並び、河道の拡幅によって河川の流下量を増加させることが困難であり、遊水池を設けることによって治水安全度を確保しています。

川和遊水地は、横浜環状鉄道（日吉～中山間）川和車両基地の建設予定地の地下を利用することにより、河川環境への影響を最小限にとどめ、また、共同事業における土地の立体的利用による用地費のコスト縮減、事業効果の早期発現が図れます。



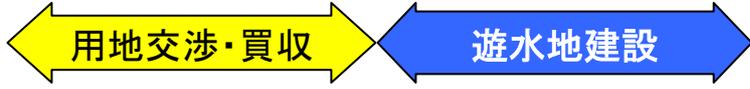
総合治水対策の効果

想定被害：S33年狩野川台風（4時間雨量109mm）



共同事業のメリット

単独遊水地の場合



共同事業の場合

